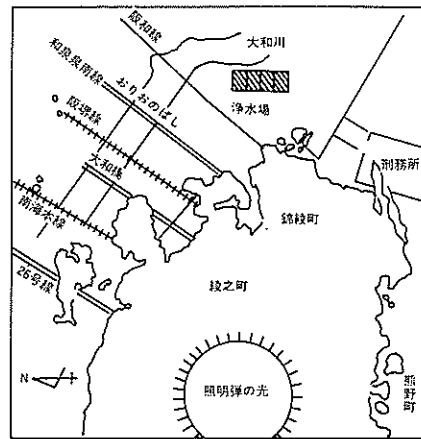


大空襲

B29の空襲により炎上する市北部（アメリカ軍撮影）

「堺市に襲撃したのは、サイパン・イスレイ基地の第73航空団であった。発進したのは124機、うち先導機が12機で、これはM47焼夷弾（100ポンド）を塔載し、主力部隊112機はM47焼夷弾またはM69焼夷弾（6ポンド）の集束弾（500ポンド）を塔載していた。116機（うち1機は天候観測機）が堺都市地域に対して、午前1時33分から3時6分の間、10,000フィート（3,000メートル）ないし11,350フィート（3,500メートル）の高度から778.9トン（約1,700トン）を投下し、1.02平方マイルを破壊したと記されている。第21爆撃機軍団のこの空襲に関する作戦任務要約（Mission Summary）には「乗員は火災の真っ赤な輝きがほぼ200マイルにわたって見えた」と報告した。煙の柱が17,000フィート以上まで達した」と堺市に発生した猛火のすさまじさが記されている。」

（小山仁著『解説 大阪空襲について』から）写真は、アメリカ国立公文書館蔵・大阪府平和祈念戦争資料室提供。



写真中にある番号付カッパ内は焼夷弾が投下された区域。



翌日もまだ炎が消えず
大道付近。

炎上する旧市南部 7月9日夜のラジオ情報は和歌山方面を攻撃した米機があいついで南方洋上に退去しつつある旨を報じたので翌10日午前1時ごろに至り、市民の多くがホッとしたのもつかの間、30分後突如としてB29数機が大阪湾上から市南西に侵入し、東北方にかけて疾風のように通過しながら焼夷弾の雨を降らし、たちまち大浜、竜神、宿院一帯が猛火に包まれた。これ以後1時間にわたり、100数機が、数機ずつに分かれ、油脂および黄燐性の焼夷弾を波状投下。旧市街は、完全に火の海と化した。



炎上する旧市南部 幸町（現幸通）から西方を撮影（7月10日）

